

ブラジル中央銀行は政策金利を14.25%で据置き

2016年3月4日

<政策金利は14.25%で据え置き>

3月2日(現地、以下同様)、ブラジル中央銀行は政策金利を14.25%で据え置くことを決定しました。同中央銀行は昨年7月の利上げを最後に、5会合連続で政策金利を現行水準に維持したことになります。声明文では、「経済シナリオ、インフレ見通し、現在のリスク環境、国内外の不透明さを考慮し、政策金利は14.25%で据え置くことを決定した」としました。しかし、今回の決定は全会一致ではなく、2名の理事は反対し0.5%ポイントの利上げを主張したようです。

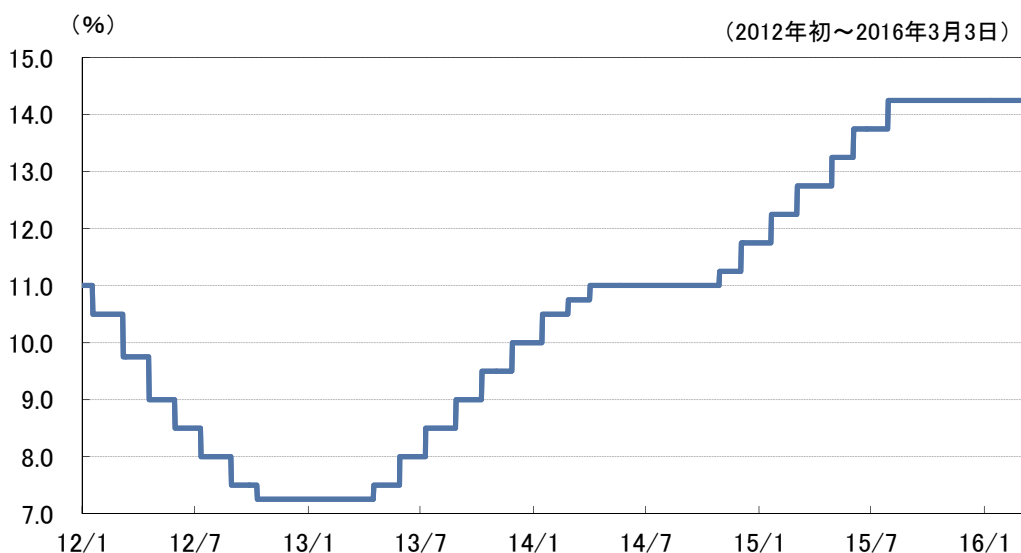
<足元のファンダメンタルズについて>

ブラジルの経済環境は厳しい状況が続いています。レアル安により貿易収支は改善基調にありますが、3月3日に発表された2015年10-12月期の実質GDP(国内総生産)成長率は前年同期比▲5.9%となり、通年の成長率は▲3.8%となりました。2016年1月のインフレ率は前年同月比10.71%となり、高止まりが続いています。財政状況も景気後退の影響により芳しくありません。政府は、財政収支の改善のために当初予算比234億レアルの歳出削減案を議会に提案しました。一方で、歳入見通しに不透明さがあるとして、プライマリー・バランスの黒字目標値を対GDP比で▲1%程度まで幅を持たせる必要性を訴えました。

政局情勢については、大手石油会社をめぐる贈収賄事件に関する捜査が続いているため、不安定な状況が続いています。こうした状況の中、主要格付会社はブラジルの信用力を見直し、自国通貨建て長期債格付けと外貨建て長期債格付けを投機的水準へ引き下げました。

なお、現在ブラジルは降雨に恵まれ、ダム貯水量が回復しています。発電方式の一部がコスト高の火力から水力へ切り換えられているため、早晚電力料金が引き下げられる見込みであり、インフレ圧力の緩和が期待されています。

ブラジルの政策金利の推移



(出所)ブルームバーグ

当資料のお取り扱いにおけるご注意

■当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和投資信託により作成されたものであり、勧誘を目的としたものではありません。■当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から作成していますが、その正確性・完全性が保証されているものではありません。■当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は当資料作成時点のものであり、将来の成果を示唆・保証するものではなく、また今後予告なく変更されることがあります。■当資料中における運用実績等は、過去の実績および結果を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。

販売会社等についてのお問い合わせ⇒大和投資信託 フリーダイヤル 0120-106212(営業日の9:00~17:00) HP <http://www.daiwa-am.co.jp/>

大和投資信託

Daiwa Asset Management

<今後の見通し>

市場では現在、世界的にリスク回避姿勢が若干和らいでいるほか、ブラジル国内の材料では将来のインフレ圧力の緩和期待や、それによる中央銀行の金融緩和姿勢への転換の可能性などに関心が向かっています。また不安定な政局についても、財政改革審議の遅れが懸念されているというよりは、むしろ政権交代の実現可能性が高まるとの前向きな見方がされています。短期的には、こうした見方の持続性に注意する必要があると思われます。

一方、中長期的には、景気低迷と高インフレの中、財政悪化が進行している状況にも留意する必要があると考えています。特に、景気対策を後回しにしてでも財政健全化のための緊縮財政政策とインフレ沈静化のための高金利政策を優先してきた政府と中央銀行が、大統領の支持率低迷や深刻な景気後退が続く中で、財政・金融政策の軌道修正を始めた点は、手綱が緩まりかねない政策運営として市場の信頼を損なう可能性もあり、引き続き注意が必要と考えています。

ブラジル・レアルの推移



(出所)ブルームバーグ

以上

※1ページ目の「当資料のお取り扱いにおけるご注意」をよくお読みください。